

南区の
宝物3
その

大切な先人たち

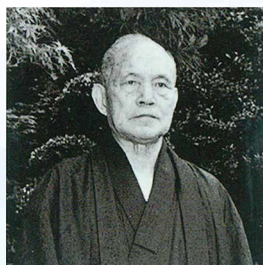
ふるさとを思うからこそ、偉大なる先輩たちを忘れない。地域の偉人は、南区の人たちの誇りであり、支えでもあります。

郷土の先人達の活躍を知る

曾我・平澤記念館

加藤清二郎 (かとう せいじろう)

1898 (明治31) 年に旧白根市に生まれる。1921 (大正10) 年、上京し、外回りの際に外食するのにいい場所が無いことに目をつけ、1924 (同13) 年に個人経営の須田町食堂を開店。レストランの企業化を最初に実現し、外食産業の礎を築いた。



1934 (昭和9) 年には株式会社聚楽(じゅらく)を設立して代表取締役就任。新宿、上野など東京都内を拠点にレストランを展開した。また、東京と新潟をつなぐ列車食堂や新潟にも外食産業を展開。戦後はホテル業にも進出した。1982 (同57) 年逝去。旧白根市名誉市民。

佐藤幸治 (さとう こうじ)

1937 (昭和12) 年、旧月潟村出身の憲法学者。京都大学名誉教授。1961 (同36) 年京都大学法学部を卒業。1975 (同50) 年から京都大学法学部教授に就任。2001 (平成13) 年近畿大学法学部教授に、2004 (同16) 年より近畿大学法科大学院教授も務めた。このほか、司法制度改革審議会会長や皇室典範に関する有識者会議のメンバーに選ばれるなど要職に就き、活躍している。旧月潟村名誉村民。



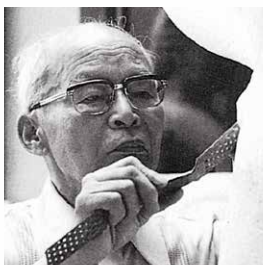
石山賢吉 (いしやま けんきち)

1882 (明治15) 年、旧白根市出身。1906 (同39) 年、慶応義塾商業学校を卒業。雑誌、新聞の各記者を経て、1913 (大正2) 年経済雑誌ダイヤモンド社を設立し、雑誌「ダイヤモンド」を創刊した。1955 (昭和30) 年、雑誌社経営及び雑誌編集者としての業績に対して、第三回菊池寛賞を受賞。また、1962 (同37) 年藍綬褒章、紺綬褒章、1964 (同39) 年に勲三等旭日中綬章を授与された。1964 (同39) 年逝去。従四位に叙せられた。



千野茂 (ちの しげる)

1913 (大正2) 年、旧白根市生まれの彫刻家。1933 (昭和8) 年に旧白根市から新潟市に転住し、島田美晴に木彫を師事。1934 (同9) 年に上京して、翌年に新海竹蔵に師事。1942 (同17) 年に院展初入選。1955 (同30) 年に日本美術院同人に推挙される。1963 (同38) 年には国画会会員、1976 (同51) 年には東京芸術大学教授となる。その後、東京芸術大学名誉教授となる。2002 (平成14) 年逝去。



吉田醇一郎 (よしだ じゅんいちろう)

1899 (明治32) 年、旧味方村に生まれる。1912 (大正元) 年、13歳で上京し、浅草で徒弟奉公しながら、日本画を山中敬中、蒔絵を植松包美に師事。



1925 (大正14) 年の第12回農展に蒔絵作品を出品し3等賞を受賞。その後1927 (昭和2) 年の第8回帝展から入選を重ね、第11回展、第15回展には特選となる。

戦後は日展で活躍。日展会員、評議員、審査員を務め、的確な技法による鮮烈で華麗な漆芸作品はわが国の漆芸でも大きな注目を集めた。1969 (同44) 年、逝去。

平澤興 (ひらさわ こう)

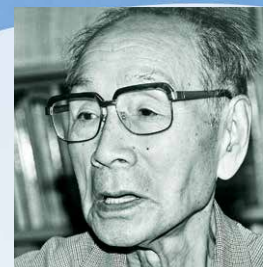
第16代京都大学総長。1900 (明治33) 年、旧味方村に生まれる。1920 (大正9) 年、京都帝国大学医学部に入学。大学3年時に基礎医学の道に進むことを決めた。



1924 (大正13) 年、京都帝国大学医学部を卒業。研究を重ね、1930 (昭和5) 年には新潟医科大学教授に昇進した。脳脊髄の「錐体外路系」の研究が世界的に認められ、1946 (同21) 年に京都帝国大学へ。1951 (同26) 年には日本学士院賞を受賞。そして、1957 (同32) 年に第16代京都大学総長に選ばれた。1989 (平成元) 年逝去。旧味方村名誉村民。

長井亮之 (ながい りょうし)

1904 (明治37) 年に旧白根市に生まれた日本画家。1936 (昭和11) 年、院展に初入選。1937 (同12) 年、小林古徑に師事し、酒井三良から指導を受けた。1960 (同35) 年には奥村土牛に師事。1967 (同42) 年、院展にて奨励賞、白寿賞、G賞を受賞。1968 (同43) 年、院展で特待に推挙される。その後、新潟日報文化賞受賞。晩年は朱鷺を描き続け、「朱鷺の画家」として知られている。2004 (平成16) 年逝去。



曾我量深 (そが りょうじん)

1875 (明治8) 年、旧味方村に生まれる。仏教思想家。1897 (同30) 年、浄恩寺・曾我慧南師の養子となり曾我姓に改姓。真宗大学、東洋大学、大谷大学で教授を歴任。1941 (昭和16) 年には東本願寺最高の学階である真宗大谷派講師を任ぜられる。1951 (同26) 年、大谷大学名誉教授に就任。1961 (同36) 年には同大学の学長に就任し、以後6年の任期を務めた。



1965 (昭和40) 年、勲三等瑞宝章を受章。1971 (同46) 年逝去。旧味方村名誉村民。

語り継がれる 水との闘い

大河信濃川と、その支流中ノ口川の2つの河川を有する南区にとって、その歴史は水害との闘いの歴史でもあります。

江戸時代末期まで、越後平野は度重なる洪水に悩まされてきました。その対策として始まったのが信濃川を約9キロにわたって分流し、日本海へ流す大河津分水路工事でした。一度は中止となったこの工事を再開にこぎつけたのが、旧古川村(現南区古川)の田沢与一郎・実入親子でした。二人は信濃川治水会社をつくるなど、先頭に立って一大運動を展開し、その完成に大きく尽力しました。

長い治水の歴史を後世に伝えようと、平成12年、旧白根市・旧味方村・旧月潟村・旧中之口

村の住民らが、水害をテーマにしたミュージカル「リバーピープル〜川とたたかう人々〜」を創作。白根学習館で公演され、多くの人に感動を与えました。



ミュージカル リバーピープル



田沢実入